

彩の歳時記

平成二十五年 五月

「薔薇二曲」 北原白秋

一

薔薇ノ木ニ

薔薇ノ花咲ク

ナニゴトノ不思議ナケレド

二

薔薇ノ花

ナニゴトノ不思議ナケレド

照リ極マレド木ヨリコボルル

光リコボルル



「風薫る五月」甘く香しい薔薇の存在感、花の中でも群を抜き、芸術作品の主題として多く採り上げられています。

白秋は自らこの詩を解説し、「薔薇の花が咲くのは、実に驚嘆することではないか。この神秘はどこから来る。

この驚きを驚きとする心から、宗教も哲学、詩歌、自然科学も生まれて来るのではないかと。「砂山」、「この道」、「待ちぼうけ」、「ペチカ」などの童謡や民謡「ちやつきり節」、駒澤、同志社大学など二十数校の校歌の作詞など、マルチな才覚を発揮した日本を代表する近代詩人、北原白秋【1885～1942】の「薔薇」への思いがちりばめられた一篇です。旧古河庭園や神代植物公園など、都内近郊には、薔薇が人気の庭園も多く、五月のバラを満喫できます。

五月の異称、さつき 五月、早月、早月とも書く。早は「気が澄み渡る」の意。

早月 May

さつきと つつじ

大雑把な見分け方としては（生育環境により開花時期に違いあり）※葉の大きさは

（サツキ小、ツツジ大）※新芽が出る時期（サツキは花前、ツツジは花後）※開花時期（サツキ5～6月）

（ツツジ4～5月）俳句の季語はツツジは「春」、サツキは「夏」。



五月の暦

一日 **マデー** 1886年(明治19年)にアメリカ・シカゴでの労働者のストライキが始まり、

日本では1920年(大正9年)から行われている。



二日 **八十八夜** 雑節。立春から、八十八日目。遅霜の時期。一番茶摘みの頃。「夏も近づく八十八夜・・・」

三日 **憲法記念日(祝日)**1947年(昭和22年)に日本国憲法が施行。改憲を望む声もあるが、平和憲法を高く評価する人も多く、改憲派、護憲派のそれぞれが集会などを開き、主張をアピールする。

四日 **みどりの日(国民の休日)** 自然に親しむとともにその恩恵に感謝し豊かな心をはぐくむ。

四日 **修司忌** 歿後三十年を迎える、詩人・劇作家・寺山修司【1935～1983】の忌日。



借用(本歌取り)

「さよならだけが人生ならばまた来る春はなんだろう」など名言を遺しているが、借用(本歌取り)

も多いと言われる。これも漢詩「飲酒」の井伏鱒二・和訳「この杯を受けてくれ

勸君金屈厄 満酌不須辞
花筵多風雨 人生足別難

に依る。人それぞれがそれぞれの解釈を試みられるのが名言の由縁かも。

五日 **子供の日(祝日)** **端午の節句** 子どもの人格を重んじ、子どもの幸福をはかると共に母に感謝する日。

五日 **立夏**【二十四節気】新緑の季節、九州では麦が穂を出し、北海道では馬鈴薯や豆の種まきが始まる。

十二日 **母の日**【第二日曜日】 日本語の響き最も美しき二語なり「おかあさん」「ありがとう」**俵 万智**

十七～十九日 **三社祭(浅草神社)** 江戸三大祭を謳った狂歌に「神輿深川(深川祭) 山車神田(神田祭)、ただ

つひろいは山王様(山王祭)」には含まれないが、深川祭を外して、三社祭を入れる場合もある。

二十一日 **小満**【二十四節気】 麦などの穂がつく頃(少し満足)するの意。万物盈満・草木枝葉繁る。

二十五日 **広辞苑初版発行の日** 1955年(昭和30年) 岩波書店発行、新村出編の初版が出版。現在まで累計は1000万部を超える。**本屋大賞**「舟を編む」**三浦しをん**著は、辞書



五月の歌 **バラ色の雲** 詞：橋本淳 曲 筒美京平 1967年(昭和42)

歌唱の**ヴィレッジ・シンガーズ**は「ワイルドワウンズ」「ブロード・サイドフ

ォー」など、良家の子女が通う大学の学生を中心に結成された「**カレッジ**

フォークグループ」の一つ。当時大流行していた、**アイビールック**に

身を包み、やさしい歌声で人気を博した。1964年4月創刊の「**平凡**

パンチ」がアイビールックを持集、日本でのブームが到来した。

石津健介・創立の「**VAN**」は、その代表格でお洒落な若者達のステータスに。



バラ色の雲と 思い出をだいて
僕は行きたい 君の故郷へ
野菊をかざった 小舟の陰で
くちづけ交した 海辺の町へ

※初めて見つけた 恋のよるこび
君はやさしく 涙をふいていた
バラ色の雲と 思い出をだいて
逢に行きたい 海辺の町へ

(※くり返し)
逢に行きたい 海辺の町へ